

ふくよか

地域で支える医療と介護

2024 | 秋号 ■長崎県病院企業団本部
■令和6年11月発行



世界文化遺産「奈留島の江上集落(江上天主堂)」(五島市奈留島)

CONTENTS

- P1 ——— 企業長より
- P2 ——— 病院企業団議会(9月臨時会)
- P3 ——— 特集 | 第46回 長崎県地域医療研究会
- P3 ——— 看護職員の確保・育成
- P5 ——— 郷診郷創・ローカル5G
- P6 ——— 働きやすい職場環境づくり
- P7 ——— BREAK TIME

「ふくよか」の由来

医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力を付けて欲しいとの願いが込められています。

「泣くな、研修医」

長崎県医学修学生の夏季WS企業長挨拶

長崎県病院企業団企業長 八橋 弘

長崎県医学修学生の夏季ワークショップ（WS）が、8月16日と17日の2日間、

壱岐で開催されました。将来、企業団病院で勤務する医学生を対象として、離島やへき地の医療現場を早く理解してもらうために長崎県が企画しているWSです。4大学の医学生64名が参加しました。向原茂明壱岐病院長の講演、企業団病院の先輩医師からの体験談、元厚労省医系技官の吉村健祐千葉大教授の講演に加えて、WSのテーマである「離島でやりがいを持って医師として働くために必要なことは何か」について全員で考え議論しました。

WSの始めに、私は企業長挨拶として3つのことをお話ししました。

まず「長崎県病院企業団とは」

長崎県病院企業団は、離島とへき地に位置している8病院と3診療所を運営しています。その病床数は合計で1520床、職員数は約2400名、長崎県人口の17.2%（21.6万人）、県全体の面積の47.2%に住む人々の地域医療を支えていることなど、長崎大学病院に次ぐ長崎県で2番目の病院組織であることを紹介しました。また企業団の理念は「医療の地域偏在が顕著な長崎県の離島・周辺部における継続性のある良質な医療の提供と医療レベルの向上を図り、県民の健康な生活の確保に貢献する」であることをお伝えしました。

2番目に「医学と医療の違い」

企業団の理念の文章の中には「医療」という言葉が3回出てきますが、医療とは何でしょう。医学と医療はどこが違うのでしょうか。元日本医師会長武見太郎先生は「医療とは医学の社会的適用である」と定義されました。私は「医学では正しいか正しくないかが問われる、医療では適切か適切でないかが問われる」「医学には正解がある、医療には正解がない」と考えています。

皆さんは、医学部に入学するまで、また入学してから、正解のある問題を数多く解いてこられました。しかし医療の現場

3番目に「人生で一番大切なことは思い出を作ることだ」

では、診断がつかない、病気の原因がわからない状況下でも、患者を救うために苦渋の判断と決断をすることがあります。また医師が正しいと思うておこなった治療が、必ずしも患者やその家族の希望に沿わないこともあります。仮に医療に正解があるとするならば、それは患者やその家族の中にあると私は考えています。

これは、最近のベストセラー「DIE WITH ZERO」（ビルパーキンス著）に書かれてある一文です。普段から、この言葉を意識すると豊かな人生を送ることができかなと思います。このWSに参加することで、大切な友人や先輩／後輩との新しい出会いと思いが作られることを願っています。

医学生の間は医学を学び、医師免許取得後は医学に加えて医療を学ぶ必要があります。多くの矛盾や困難な状況下の医療現場においても、医師は患者とその家族にとって最善の道を模索しなければなりません。研修医は医学生7・8年生ではなく、医師としての自覚と責任を醸成する大切な時です。私は、研修医の時間が医師人生の中で精神的にも肉体的にも最も辛い時だったように思います。「泣くな、研修医」苦しい研修医時代を乗り越えた後に、一人前の医師になれたような気がします。医学生の中から医学に加えて医療についても考えてほしいと願っています。

以上が企業長挨拶の内容でした。WSを終えた2日の午後、参加された医学修学生の満足そうな笑顔をみることができました。



病院企業団議会9月臨時会にて 補正予算を承認・可決

令和6年臨時会を9月30日に開会し、「令和6年度病院事業会計補正予算（第1号）」、「令和6年度病院事業会計補正予算（第2号）」の2議案が上程され、承認・可決されました。

第1号議案は、企業長専決した新興感染症の発生・まん延時に対応するための病室の整備や簡易陰圧装置などの設備の整備に要する経費です。第2号議案は、①島原病院と対馬病院の地域医療構想※の実現に向けた病床機能の分化・連携を推進するための施設・設備の整備、②壱岐病院の患者サービスや医療機能の向上のため、増築棟の整備や既存棟を改修するための経費などです。これにより壱岐病院については、今年度から新たに心臓カテーテル室、健康増進や医師の臨床研修に係る施設などの整備が始まる予定です。



壱岐病院正面左手に増築棟を建築予定

※地域医療構想
国や県が進める将来の人口構造や医療ニーズの変化を見据えた医療機関の機能分化・連携により、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制を確保するもの。

特別講演 | 「どのように地域医療を守るか — 10年後を見すえて」



地域医療に従事する医師に求められる臨床能力について、いくつかのキーワードを用い、その能力には医学や医療以外の知識・技能・姿勢・態度が求められることなど、ご講演いただきました。

講演者 | 中津川市地域総合医療センター長
伴 信太郎 先生
(愛知医科大学 医学教育センター特命教育教授)

シンポジウム | 「10年先の離島・地域医療を展望する」

今回研究会の会長である吉岐病院の向原茂明院長の進行で、参加されたのは篠原一生吉岐市長、高山隼人長崎医療センター院長、病院企業団の八橋弘企業長、貞方三枝子看護管理監の4名。「誰もが安心した生活を送ることができる島であり続けるために、これまで以上に対策を講じる」「10年後の企業団病院は更に発展し続ける」「働き甲斐とワークライフバランスを楽しむことが出来る離島医療現場を作っていく」「看護師の立場から医療効果と患者・職員満足度の高得点を目指す」など、それぞれのお立場から展望する離島・地域医療について貴重な提案や思いが述べられました。



篠原一生吉岐市長



研究会の発表集は企業団ホームページに掲載しています。
次回は令和7年11月8日・9日開催予定で会長は五島中央病院長となります。

第46回長崎県地域医療研究会

～10年先の離島・地域医療を展望する～



向原院長の開会挨拶

10月19日、20日にかけてベネックス長崎ブリックホール(長崎市)で、第46回長崎県地域医療研究会を開催しました。今回は企業団病院等関係者のべ約300名が参加し、会長である吉岐病院の向原茂明院長の開会あいさつの後、「10年先の離島・地域医療を展望する」をテーマに、外部有識者による講演、市長・病院長などによるシンポジウムなどが行われました。職種ごとの指定・一般演題プログラムでは、平戸市民病院や長崎県子ども医療福祉センターの職員、長崎県立大学シーボルト校の学生の皆さんにも発表いただきました。

プログラム

- 1日目
- 開 会
 - 指定演題(医師から見える10年後の医療)
 - 一般演題(看護部門)
 - シンポジウム「10年先の看護を展望する」
 - 一般演題(医師部門)
 - 特別講演「どのように地域医療を守るか — 10年後を見すえて」

2日目

- シンポジウム「10年先の離島・地域医療を展望する」
- 一般演題(医師部門、医療技術部門、看護・福祉部門)
- 閉 会

指定演題 | 「医師から見える10年後の医療」

座長である長崎大学の前田隆浩教授の進行で、企業団に勤務する5名の医師から、それぞれのご専門の立場での10年後を見据えた幅広い報告がなされました。



シンポジウム | 「10年先の看護を展望する」

本部総務部の庄山由美主幹の進行で、企業団に勤務する5名の看護師による活発な意見交換が行われました。

企業団看護部門の
最新情報はコチラ



8月6日に、長崎県看護協会・長崎県ナースセンター主催の同フェアが行われました。中高生やその保護者等が来場され、現役の看護師・助産師・保健師による仕事の説明や実際に体験(実施)・相談等により、その魅力や看護職への関心を持ってもらうよい機会となりました。企業団病院からは「しまのナース」として、上五島病院の赤波江看護師と吉岐病院の日高看護師が参加し、離島医療における看護の現状ややりがいを、本部職員からも修学資金制度や教育体制の説明などを行い、しまの看護や企業団の看護職員の魅力を幅広く情報発信することができました。



県看護協会の「2024看護への道フェア」へ参加

看護師(長崎医療センターから派遣)の2人が、これまでの互いの離島病院での学びやエピソード、今後の抱負や思いなど報告し交流を深めました。



令和6年度第1回アイランドナースリフレッシュ研修・交流会

7月26日に、長崎でアイランドナースの皆さんの研修・交流会を実施しました。今年度は対馬病院勤務の富崎看護師(長崎大学病院から派遣)、五島中央病院勤務の松崎

7月25日に、今回初めての取組として、各企業団病院で活躍している7名全ての診療看護師たちが参加して交流会を長崎(企業団本部)で行いました。ワークショップでは今後の活動に役立てることを目的に「企業団病院に求められる診療看護師(NP)」について意見交換し、現状や課題などについて情報共有を行いました。今後の皆さんの更なる活躍に期待したいと思います。



令和6年度第1回診療看護師交流会

看護
職員の
確保・
育成の

～働きやすい職場環境づくり～

～男性職員の子育て休暇・休業制度～

病院企業団では、男性職員の皆さんが子育てしやすい職場環境づくりを進めており、育児休業の取得率も令和4年度の15.0%から令和5年度は17.1%に増加しています。

子育て中や子育てを控えた男性職員の皆さんは、配偶者と一緒に子どもの出生や養育を行うため、早めに各所属と相談しながら計画的に休暇・休業を取得しましょう！

出産補助休暇

配偶者の出産にあたり、配偶者や子を世話する時に3日以内

部分休業

子が小学校就学始期までの間、勤務時間の始め又は終わりに2時間以内

男性職員の育児参加のための休暇

配偶者の産前・産後期中において子の養育をする時に5日以内

育児短時間勤務制度

子が小学校就学始期に達するまでの間、いくつかの変則的な勤務形態が可能

育児休業

子が満3歳になる日の前日まで
※原則2回まで分割可。休業中は無給ですが、共済組合の手当金支給や掛金免除があります。配偶者の体調がすぐれないときや育休復帰直後などの大変な時期に取得できます。

詳しくはHP内の
子育て支援
ハンドブック(PDF)
をご覧ください



～パシエントハラスメント対策～

外部からの暴行、脅迫、ひどい暴言、不当な要求等の著しい迷惑行為(社会通念上不相当なものであって、職員及び関係者に精神的・身体的苦痛を与え、労働環境が害される言動、以下「パシエントハラスメント」)の対策については、今年度から病院企業団のハラスメント防止等要綱や、ハラスメントに関するリーフレットへ追記しています。

また、7月12日、企業長や院長等が参加する経営会議後に、福岡博孝弁護士を講師に招いて開催したパシエントハラスメント研修会「パシエントハラスメン

ト対策～患者・家族との向き合い方～」については、職員の皆さんの都合の良い時に視聴が出来ますのでご活用ください。今後も組織全体でパシエントハラスメントに対応していきましょう。



地域から信頼され、必要とされる医療を提供

病院企業団では、住民の皆様が住み慣れた地域で健康で明るく、安心して暮らせる生活を実現していただくため、必要な医療を適切に受けられるよう、様々な取組を行っています。

取組1

地域の医療機関に受診していただく取組

各病院では、「郷診郷創(地域での受診が地域を創る)」として、地域内で治療可能な医療を、その地域内で受診していただけるような病院づくりを進めています。ぜひ、お住まいの地域医療機関での受診をお願いします。取組内容は

- 医療機能の充実強化
- 健診事業の充実
- 他医療機関や介護施設などとの連携強化
- 住民の方々への広報誌の発行や公開講座の実施

などで、より良い病院づくりに取り組んでいます。



脳卒中市民公開講座(島原病院)

取組2

遠隔専門診療のためのローカル5Gネットワークを整備

令和6年4月から、離島住民の皆様が地元病院で専門的な診療を受診できるよう、「ローカル5Gによる遠隔専門診療」を開始しています。これは、高品質な画像情報を高速で通信し、リアルタイムで、長崎大学病院の専門医の支援を離島基幹病院(五島中央・上五島・舌岐・対馬)の医師が受けて行う診療です。診療科としては画像・映像が特に有効な脳神経内科、消化器内科、皮膚科の3科になります。

また、この取組は6月に総務省九州総合通信局等から、医療格差の縮小を図る医療分野の高度化に貢献したとして、実施主体である長崎県、長崎大学、NTT西日本、当病院企業団の4者が表彰を受けています。



消化器内科



皮膚科



脳神経内科

長崎でも盆ジョヴィ!?

企業団本部のある長崎市内では、10月の諏訪神社の大祭「長崎くんち」が盛大に行われました。日本の多くの祭り・行事は、新型コロナウイルス禍による中止・縮小の苦難を経て再開されましたが、人口減少や高齢化のなか、一難去ってまた一難、昨今の物価高や人件費上昇の波が押し寄せ、いくつかはその継承や発展のため、新たな有料席の導入や幅広い層の参加を増やす様々な取組が行われています。今年4月アメリカでは、ロックバンド、ボン・ジョヴィのリズム感ある楽曲に合わせた新感覚の盆踊り「盆ジョヴィ」が行われ、そのルーツは東京・中野駅前大盆踊り大会の逆輸入とされており、祭りが多文化共生の街づくりにつながることを秘めています。

長崎県内では、昔から海外との交流が盛んだったこともあり、大小様々な祭り・行事がいにしえから受け継がれ、地域を元気にし、生活文化の核となって人の輪をつくるための大切な役割を担ってきました。今回は県教育委員会「長崎の祭り・行事調査報告書(2002年)」や長崎伝統芸能振興会「長崎くんちの栞(1984年)」などを参考に、県内の歴史あるおススメの祭り・行事をいくつかご紹介します。



「長崎くんち」は毎年10月7日から始まり、初日に諏訪神社を出た3体の神輿は、3日間企業団本部のある建物に隣接して設けられる「お旅所」に安置されます。1634年、音羽と高尾という二人の遊女が謡曲小舞を奉納したことが始まりとされ、各踊町は傘鉾を先頭に行列を組み、奉納踊りを披露しま



BREAK TIME



すが、コッコデシヨ(太鼓山:堺の人々がだんじりを伝えたものが源流)や龍踊、川船などの人気の出し物が多く観客を魅了します。市内ではこのほか崇福寺の長崎だけに残る「中国盆」(9月)や、今年は縮小開催でしたが孔子廟で9月に行われる牛豚羊を生贄として捧げる「孔子祭」など外来系の祭りがあります。

島原市は300年の伝統を持ち県内各地でも行われている8月の精霊流し。特徴は「切り子灯籠」という角型の独特の提灯を主体とする精霊船です。掛け声は長崎地方の「ドーイイ」に対して「ナマイドーナマイドー」と唱名を称えます。

このほか、五島は不思議さ漂う「下崎山のヘトマト」(1月)、上五島は真夜中の祭典「青方神社の御膳部祭」(1・11月)、壱岐は福岡県津屋崎から伝わった「郷ノ浦祇園山笠」(7月)、対馬はユネスコ無形文化遺産に登録された特異な「対馬の盆踊」(8月)など万々千千ですが、この数十年間でいくつかの祭り・行事が消えていきました。来年秋、本県では国内最大規模の文化の祭典、国民文化祭・全国障害者芸術文化祭「ながさきピース文化祭2025」が開催されます。子どもの頃の楽しかった夏祭りを思い出しながら、是非この機会にかけがえのない地域の宝である祭りや行事を、新しい担い手とともに次世代へ継承していただくよう、関係者の皆様に心から声援を送ります。

今回は最後に心に残った一言。スティーブ・ジョブズ氏の有名な「ハングリーであれ、愚かであれ」のスタンフォード大学でのスピーチの一節「あなたの心や直感に従う勇気を持つことが最も重要なことです」。皆さんも勇気を持って第一歩を踏み出してみましょ。 (文:副企業長 馬場秀喜)

編集後記

今回はパシエントハラスメント(ペイハラ)研修について紹介しています。苦慮しておられる職員のみさんの一助となれば幸いです。世の中には様々なハラスメントが存在しています。自分の行いは「迷惑行為」になっていないか?と己を振り返りつつ、お互いに相手を思いやって行動していきたいところです。[M.H]

表紙写真提供:(一社)長崎県観光連盟

令和6年11月発行
編集・発行/長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
[E-mail] honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
[U R L] <https://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp>
◎上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を どんどんお寄せください!

地域で支える医療と介護



長崎県病院企業団

検索

長崎県病院企業団
ホームページ

